

波奈之丸(なみなしまる)は、江戸時代、熊本藩主が参勤交代で乗船した御座船である。殿様の御座所である舟屋形には、藩の御用絵師が三掛けた豪華絢爛な天井画や襖絵等の内装が施された。明治時代、熊本藩の終焉と共に廃船となった波奈之丸だったが、停泊地の大半で舟屋形部分だけが残され個人蔵となった。熊本に帰還したのは大正10年(1921)で、熊本市北岡の細川邸に保管された。戦火を免れた舟屋形は、昭和29年(1954)には国の重要文化財に指定され、37年(1962)からは熊本城の天守閣内に展示されていた。熊本大地震で天守閣が被災した際には舟屋形も心配されたが、幸い被害は軽く、修復を経て、現在は熊本博物館に移設され展示公開されている。



左下の大船が波奈之丸 波奈之丸屏風(出水神社所蔵)

熊本の宝を未来へつなぐ、再現模写の世界

熊本藩御座船 波奈之丸舟屋形天井画

本展覧会では、時代時代に描かれ時を重ねて令和に残る郷土熊本くまもとの文化財を模写修復して次代に継いでいこうとする熊本の人々の活動と作品を紹介し、熊本の宝を未来につなぐ再現模写の世界を展観します。

熊本の歴史的絵画や文化財を模写・修復し再現する活動を行っているNPO法人くまもと文化財プロジェクトでは、「波奈之丸舟屋形の天井画をもっと近くで多くの人に見てもらいたいその素晴らしさを感じてほしい」との思いから、波奈之丸天井画の再現模写に取り組み、その作品100枚を公開することとなりました。熊本にあって故郷に残る文化財の模写修復を長年続けている日本画家大塚浩平氏の作品をはじめ、名古屋城本丸御殿復元模写等に携わる熊本出身の日本画家の波奈之丸天井画模写や、熊本の子供たちが挑戦した同作品文化庁伝統文化親子教室事業も併せて展示します。

さらに今回の展示では、天井画を手掛けた熊本藩御用絵師・杉谷行直や矢野良敬の作品や史料、波奈之丸天井画の下図を展示します。



初公開



杉谷家画稿 波奈之丸天井画下絵 (熊本県立美術館所蔵)



波奈之丸天井画 模写 (くまもと文化財プロジェクト所蔵)



竹内茂兵衛書状 部分 (個人蔵 熊本博物館寄託)

矢野良敬 加藤忠広像 (熊本城顕彰会所蔵 熊本博物館寄託)



杉谷行直 山水図 (熊本県立美術館所蔵)



(個人蔵)

熊本城大広間板絵を“あげ写し”で模写する様子と大塚浩平氏による模写作品